

表 1：日本気管食道科学会認定気管食道科専門医制度規則

区分1	外科系		咽喉系	内科系
区分2	食道系	気道系	咽喉系	気道系
診療科	食道外科	呼吸器外科	耳鼻咽喉科	呼吸器内科
資格	日本気管食道科学会会員歴が申請時引き続き5年以上の医師			
認定基準：右の5項目を全て満たす者	①日本外科学会の専門医・認定医取得		①日本耳鼻咽喉科学会の専門医取得	①日本内科学会の専門医・認定内科医取得
試験*	①カリキュラム【A】：共通範囲，②カリキュラム【B】：専門疾患項目，③カリキュラム【C】：専門範囲の項目から出題する。			
カリキュラム【A】：共通範囲	<p>1. 頸部～縦隔・肺の臨床解剖</p> <p>①主要臓器・血管・神経の同定</p> <p>②CT, MRI画像の理解, 横断解剖学</p> <p>③発生学, 主要な変異についての理解</p> <p>2. ①発声機能の基礎的知識</p> <p>②嚥下機能の基礎的知識</p> <p>③呼吸機能の基礎的知識</p> <p>④気道狭窄の基礎的知識</p> <p>⑤呼吸管理の基礎的知識—気道確保(気管切開術, カニューレ選択など)</p> <p>—酸素療法</p> <p>—人工呼吸</p> <p>3. ①喉頭腫瘍・下咽頭腫瘍, 気管気管支・肺腫瘍の診断と治療</p> <p>②反回神経麻痺(喉頭麻痺)の診断と治療—内視鏡による診断</p> <p>③誤嚥・嚥下性肺炎の診断と治療—菌種等, 疾患の特徴の理解</p> <p>—薬物療法の経験</p> <p>④頸部腫瘍の診断と治療</p> <p>⑤甲状腺・上皮小体疾患の診断と治療</p> <p>⑥食道腫瘍の診断と治療</p> <p>⑦GERDの診断と治療</p> <p>⑧睡眠時無呼吸症候群の診断と治療</p> <p>⑨気管支喘息の診断と治療</p>			
カリキュラム【B】：専門疾患項目	<p>①下咽頭悪性腫瘍</p> <p>②頸部～上部食道悪性腫瘍</p> <p>③頸部～上部食道良性腫瘍</p> <p>④食道裂孔ヘルニア・GERD・食道炎</p> <p>⑤食道外傷(食道破裂)・食道異物</p> <p>⑥頸部食道憩室</p> <p>⑦食道気管支瘻</p> <p>⑧嘔声・反回神経麻痺</p> <p>⑨誤嚥・嚥下性肺炎</p>	<p>①気管支異物</p> <p>②損傷(気道・縦隔)</p> <p>③気管気管支軟化症</p> <p>④肺・縦隔腫瘍</p> <p>⑤気管気管支腫瘍</p> <p>⑥気管支食道瘻</p>	<p>①喉頭横隔膜症</p> <p>②喉頭軟弱症</p> <p>③喉頭斜位</p> <p>④急性喉頭蓋炎</p> <p>⑤急性声門下喉頭炎</p> <p>⑥喉頭結核</p> <p>⑦喉頭浮腫</p> <p>⑧声帯良性腫瘍(ポリープ, 結節, ポリポイド, 嚢胞等)</p> <p>⑨喉頭肉芽腫</p> <p>⑩頸部外傷</p> <p>⑪下咽頭食道異物</p> <p>⑫喉頭乳頭腫(パピローマ)</p> <p>⑬その他の喉頭良性腫瘍</p> <p>⑭喉頭白板症</p> <p>⑮悪性リンパ腫</p> <p>⑯頸部蜂窩織炎・膿瘍</p> <p>⑰頸部嚢胞</p> <p>⑱頸部良性腫瘍</p> <p>⑲頸部悪性腫瘍</p> <p>⑳良性甲状腺腫瘍</p> <p>㉑悪性甲状腺腫瘍</p> <p>㉒上皮小体腫瘍</p>	<p>1. 気道疾患</p> <p>a) 感染症</p> <p>①急性上気道炎, 急性気管支炎</p> <p>②細菌性肺炎</p> <p>③嚥下性肺炎</p> <p>④肺結核, 非定型抗酸菌症</p> <p>b) 慢性閉塞性肺疾患</p> <p>①慢性気管支炎</p> <p>②肺気腫</p> <p>③気管支喘息</p> <p>c) 肺胞気管支系の異常拡張(気管支拡張症)</p> <p>d) 呼吸器新生物(肺癌<小細胞癌, 非小細胞癌>)</p> <p>2. 呼吸中枢の疾患</p> <p>a) 睡眠時無呼吸症候群</p> <p>b) 過換気症候群</p>
カリキュラム【C】：専門範囲	<p>1. 開胸・開腹・VATS等に関する基本的事項</p> <p>①各種アプローチの特徴の理解</p> <p>②VATSにおける体位, ポートサイトの決定ができる</p> <p>③開胸・開腹・胸腹連続切開・経裂孔的アプローチを術者として施行しうる</p> <p>2. 下咽頭・頸部食道悪性腫瘍の診断と治療</p> <p>①内視鏡的診断を術者として施行しうる</p> <p>②外科的治療の多様性を理解し, 手術適応を検討・決定できる</p> <p>③術者, あるいは助手としての外科的治療の経験</p> <p>④化学/放射線療法についての理解</p>	<p>1. 手技に関する基本的事項</p> <p>①各種開胸法</p> <p>②胸腔鏡下手術(VATS)におけるポートサイトの決定</p> <p>③気管支ファイバースコープ</p> <p>④硬性気管支鏡</p> <p>⑤縦隔鏡</p> <p>2. 気管支異物の診断と治療</p> <p>①内視鏡異物摘出術</p> <p>3. 気道・縦隔の損傷に対する診断と治療</p> <p>①診断</p> <p>②治療(外科的治療を含む)</p> <p>4. 気管気管支軟化症の診断と治療</p> <p>①診断</p> <p>②治療</p>	<p>1. 検査(施行または解釈ができる)</p> <p>①間接喉頭鏡検査</p> <p>②喉頭直達鏡検査</p> <p>③硬性食道鏡検査</p> <p>④喉頭ファイバースコープ</p> <p>⑤下咽頭ファイバースコープ</p> <p>⑥喉頭ストロボスコープ</p> <p>⑦ラリゴマイクロスコープ</p> <p>⑧音声機能検査</p> <p>⑨音響分析検査</p> <p>⑩アイソトープ検査</p> <p>⑪甲状腺機能検査</p> <p>⑫上皮小体機能検査</p> <p>⑬頸部超音波検査</p> <p>⑭咽頭食道造影検査</p> <p>⑮呼吸機能検査</p>	<p>1. 検査(施行または解釈ができる)</p> <p>①胸部X線診断法</p> <p>胸部CT</p> <p>②喀痰検査</p> <p>微生物学的検査, 核酸増幅法</p> <p>③気管支鏡検査(擦過法, 生検, 肺胞洗浄)</p> <p>④腫瘍マーカー</p> <p>⑤ウイルス学的検査</p> <p>⑥呼吸機能検査法</p> <p>a) ピークフローメーター</p> <p>b) スパイロメトリー</p> <p>c) Flow-volume 曲線</p> <p>d) 睡眠時呼吸モニター</p>

表1：つづき

<p>カリキュラム【C】： 専門範囲</p>	<p>3. 頸部～上部食道良性腫瘍の診断と治療 ①診断、経過観察の経験 ②切除術の適応、外科的手技の理解 4. 食道裂孔ヘルニア・GERD・食道炎の診断と治療 ①内視鏡的診断を術者として施行しうる ②内科的治療の経験 ③外科的治療の経験 5. 食道外傷・食道異物の診断と治療 ①基本的事項の理解 ②内視鏡的異物除去を術者として施行しうる 6. 頸部食道憩室の診断と治療 ①基本的事項の理解 7. 食道気管支瘻の診断と治療 ①基本的事項の理解</p>	<p>5. 肺・縦隔腫瘍の診断と治療 ①内視鏡的、経皮的または胸腔鏡的診断 ②標準的肺葉切除および縦隔腫瘍摘出術 ③系統的リンパ節郭清 ④気管支形成を伴う肺葉切除術 ⑤化学/放射線療法 6. 気管気管支腫瘍および中枢気道狭窄の診断と治療 ①内視鏡的診断 ②内視鏡的治療（気道ステント、バルーン拡張、高出力レーザー焼灼、高周波スネア、等） ③早期症に対する治療法（光線力学的治療法、腔内照射、等） ④気管および気管支管状切除 ⑤化学/放射線療法 ⑥気管気管支隣接臓器 ⑦呼吸機能 7. 気管支食道瘻の診断と治療 ①内視鏡的診断 ②外科的・内視鏡的治療法</p>	<p>2. 以下の処置が施行できる ①喉頭注入 ②気管内挿管 ③気管切開孔管理（気管カニューレ選択） 3. 以下の手術を経験している ①喉頭・気管異物摘出術 ②下咽頭・食道異物摘出術 ③喉頭全摘出術 ④咽喉頭頸部食道摘出術 ⑤喉頭癌摘出術 ⑥喉頭部分切除術 ⑦頸部郭清術（根治的、保存的） ⑧ラリngoマイクロサージャリー ⑨声帯内方移動術 ⑩声門開大術 ⑪輪状咽頭筋切断術 ⑫喉頭挙上術 ⑬喉頭狭窄形成術 ⑭気管狭窄形成術 ⑮気管孔狭窄形成術 ⑯梨状陥凹瘻摘出術 ⑰甲状腺腫瘍切除術 ⑱上皮小体腫瘍切除術 ⑲頸部嚢胞摘出術 ⑳頸部腫瘍摘出術 ㉑下咽頭頸部食道再建術 4. 喉頭・下咽頭・頸部悪性腫瘍に対する放射線療法 5. 喉頭・下咽頭・頸部悪性腫瘍に対する化学療法</p>	<p>2. 治療：以下の項目について治療し経験する。 ①禁煙指導：ニコチンガム、ニコチンパッチ ②体位ドレナージ ③薬物治療 a) 気管支拡張薬、鎮咳・去痰薬 b) 副腎皮質ステロイド薬 c) 抗菌薬 ④酸素療法：高流量・低流量、高濃度・低濃度酸素療法 ⑤吸入療法：定量噴霧器、パウダー、ジェット・超音波 ⑥人工呼吸管理 a) 挿管人工呼吸管理 b) 非侵襲的陽圧呼吸（NIPPV） ⑦在宅呼吸療法、在宅酸素療法</p>
<p>カリキュラム【D】： 最低要件</p>	<p>1. 胸部食道へのアプローチ：以下に該当する症例5例以上の経験 ①VATS（助手補助、小開胸を含む）による食道手術（術者または第1助手として） ②通常開胸・胸腹連続切開・経裂孔的アプローチのいずれかによる食道手術（術者または第1助手として） 2. 下咽頭・頸部食道・胸部上部食道悪性腫瘍の診断と治療、および、頸部～上部食道良性腫瘍の診断と治療：以下に該当する症例5例以上の経験 ①下咽頭・頸部食道・胸部上部食道悪性腫瘍の内視鏡的観察（術者として） ②下咽頭・頸部食道・胸部上部食道悪性腫瘍の外科的治療（術者または第1助手として） ③下咽頭・頸部食道・胸部上部食道悪性腫瘍の化学療法・放射線療法による治療（担当医として） ④頸部～上部食道良性腫瘍の診断・治療（担当医として） 3. 食道裂孔ヘルニア・GERD・食道炎の診断と治療：以下に該当する症例5例以上の経験 ①内視鏡による食道裂孔ヘルニア・GERD・食道炎の診断（担当医として） ②食道裂孔ヘルニア・GERD・食道炎症例の内科的治療（担当医として） ③食道裂孔ヘルニア・GERD・食道炎症例の外科的治療（術者または第1助手として） 上記大項目（1,2,3）それぞれに「5例以上」という条件を満たす必要があるが、1と2、あるいは1と3の間で、症例の重複があってもよく、また各大項目内の小項目（①,②,③,④）間にも重複があってもよい。</p>	<p>上記カリキュラム【C】の項目1～7のうち4項目以上30例以上（1項目3例以上）を術者または主治医として経験していること</p>	<p>①カリキュラム【B】：10項目以上を計20例以上の主治医の経験 ②カリキュラム【C】： 項目1（検査）：5項目以上の施行経験 項目2（処置）：2項目以上の施行経験 項目3（手術）：5項目以上を計10例以上術者の経験 項目4（放射線治療）：治療経験症例10以上 項目5（化学療法）：治療経験症例10以上</p>	<p>①カリキュラム【B】の専門疾患項目のうち、主治医として20症例の疾患別症例数の報告 ②カリキュラム【C】の治療項目のうち、主治医として20症例の治療経験症例数の報告</p>

* 必須図書：①気管食道科学用語解説集，編集：日本気管食道科学会，発行：金原出版株式会社，2003年9月初版
* 参考資料：①日本気管食道科学会認定医制度研修ガイドライン，気管食道科診療の進歩